

あの日から、寝ても覚めても犬山さんのオマンコのことを考えている。

思い浮かべて毎日オナニーしたかったが我慢して、我慢して3日たった。

精液は3日で満タンになるらしい。僕は意を決して彼女に話しかけた。

「きよ、今日はセックスさせて下さい！」

「……ええけど、今日はナマの用意してないんよ。ゴムハメでもええ?」

一瞬迷ったが、もう我慢できそうになかった。上ずった声で了承し、あのトイレの個室に2人で入る。彼女に言われるがまま服を脱ぎ、全裸で便座に座った。



ふふっ、もうピンピンやん♡  
それじゃあゴムつけるで♡♡

そう言うとな彼女は慣れた手付きで  
コンドームを付けてくれた。





これでよしっ♡  
あはは、そんなに緊張せん  
でも大丈夫やって♡

しどろもどろで犬山さんに  
初めてだと伝える。

ああ、やっぱり初めてなんや♡  
ふうん、そっかそっか♡  
じゃあ今日は私が動くから  
きもちよく童貞卒業しよう  
なあ♡

彼女はスカートと下着を脱ぎ  
事もなげに僕の上に座った。





よいしょっと♡(ぬぷぷ…♡)

すんなりと僕のものが  
犬山さんの中に入り  
込んだ。

暖かく包み込まれるような感覚、  
彼女の体温が感じられて  
とても心地よかった。





犬山さんがゆっくりと  
腰を動かし始める。

（ぬっちゅっ♡ぬっちゅっ♡）

いやらしい水音をたてながら  
ひだがねっとり絡み  
ついてくる。

ふふっ♡気持ちええ？  
初めてのおまんこ  
じっくり楽しんでなあ♡





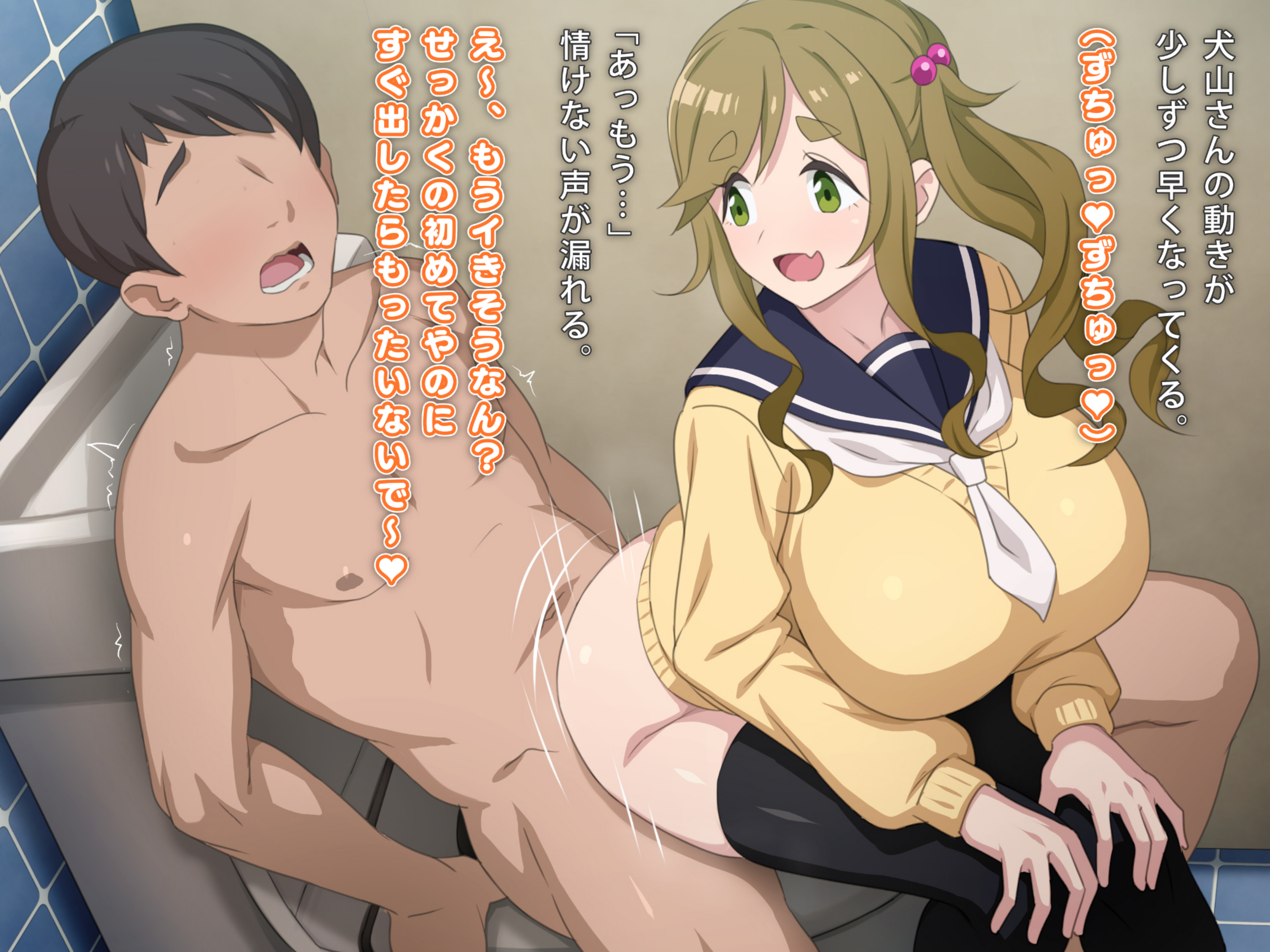
犬山さんの動きが  
少しずつ早くなってくる。

（ずちゅっ♡ずちゅっ♡）

「あっもう…」

情けない声が漏れる。

えゝ、もうイきそうなん？  
せっかくの初めてやのに  
すぐ出したらもったいないでゝ♡





ほら、がまんがまん♡  
我慢したらもっと  
きもちええで♡♡

我慢という言葉とは裏腹に  
犬山さんはどんどん動きを  
激しくしていく。  
彼女のおまんこに早く射精しろと  
搾り取られるようだった。





数分もしないうちに限界がきた。

「い、イキます!」  
(びゅくっ、びゅるっ)

はあい♡ぴゅっぴゅ♡♡

犬山さんは我慢の限界を  
悟っていたかのように、  
腰を深く下ろし、僕のものを  
膣でしっかり包み込む。

ふふっ♡  
まだビクンビクン出てるわぁ♡

彼女は射精し終わるまで  
優しく目を合わせてくれていた。



はあい♡お疲れさん♡  
これで童貞卒業やね♡  
おめでとう♡

数日前まで憧れのクラスメイト  
だった犬山さんの笑顔が前より  
なんだか身近に  
感じられた。

